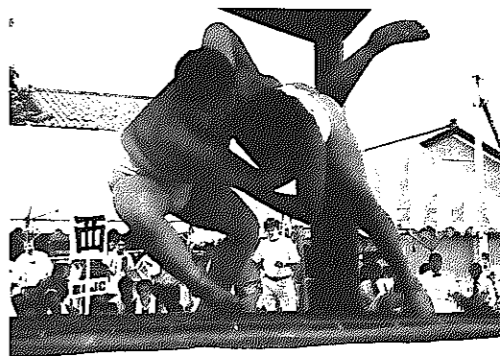


身近な情報をお寄せください  
(白根市役所企画財政課広報広聴係  
☎373-2111)

## ちびっ子力士、大健闘

わんぱく相撲新潟県大会



六月二十二日、第六回わんぱく相撲新潟県大会が小林小学校土俵場で行われました。これは、県内十五の青年会議所で組織した大会運営協議会が主催したもので、七月二十七日に国技館で行われる全国大会の予選も兼ねています。大会には、白根をはじめ佐渡や上越など県内各地の小学校四〜六年生からなる十五チームが出場しました。豆力士が、仕切りで相手を見つめる日は気迫十分。力いっぱいぶつかり合う姿に、父母らから盛んに声援が送られていました。

## 秋の収穫が楽しみ

根岸小五年生がナシの袋掛けを体験



六月十二日、根岸小学校の五年生五十六人が茨曾根地区の果樹園を訪れ、袋掛け作業などを体験しました。同小学校では、社会科の授業で白根の農業について学んでおり、その一環として体験学習を実施。五月の田植えに続いて、今回が二回目の体験学習になります。茨曾根地区公民館長の関根喜八郎さんから新品種の作り方やモモの袋掛けなどについて説明を受けた後、モモとナシの袋掛けに挑戦。子供たち一人ひとりがナシの袋に名前を書き、農家のおばさんに教えてもらいながら、見よう見まねで袋を掛けました。秋には再び茨曾根を訪れ、袋を掛けたナシを収穫する予定です。

## 社員研修で環境問題を学習

白根市行政出前講座



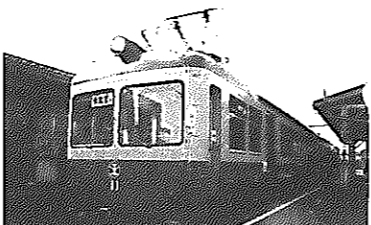
六月二十一日、青年教育センターで、白根測量設計(株)の企業内研修の一環として、環境問題をテーマにした行政出前講座が開かれました。同社約四十人の社員は、衛生センター職員を講師に市内のごみ処理の現状などについて学びました。同社では今年から社会貢献のため社員がさまざまなテーマを設けて学習していく予定。今回の講座もそのうちのひとつです。講義を終えた社員からは「ごみの分別を一生懸命やる必要性が分かった」、「グリーンタワーが有能であることを改めて認識した」などの声が聞かれました。

## 大風合戦の投句、百九十一句に

大風会入賞十二作決まる

市内の俳句の会「大風会」が、風合戦期間中に大風合戦に関する俳句を募集。百九十一句の応募があり、次の十二句が入賞しました。看護婦も医師も法被で風を揚ぐ 五十嵐智恵子(白根市) 父が描き子が戦はず大給風 和泉 伸子(白根市) いい風で風合戦になるといふ 阿部 弘(新潟市) 糸たぐり大風風に乗せ替へし 高橋 桐子(亀田町) 法被姿りりしく女風を引く 林 子光(味方村) 勝風の戦利の綱を高々と 阿部 フミ(白根市) 勝風の町内めぐる大太鼓 吉川八重子(白根市) 勝風にして戦傷深かりし 高橋 何山(亀田町) 風揚の女さりと晒締め 木村 トリ(白根市) 負風の衆に届きし気合酒 高橋奈津美(亀田町)

## 「電鉄存続を」 要望の声、高まる



六月十五日号の「広報しろね」でも特集したように、新潟交通電車線事業廃止の申し入れに対して、関係市町村は「存続対策協議会」を組織して、電鉄の存続に向けて取り組んでいます。市民や市外からも、電鉄存続要望の声が高まっています。市へ寄せられたお手紙の一部をご紹介します。

### ■電車がなくなる?

東関屋―月潟間の電車がなくなるといふ話を聞いたときは、本当に驚きました。通勤・通学のために東関屋まで利用している人や黒崎高校への通学に利用している生徒の足はどくなるのでしょうか。代替バスが出ると思えるものの、電車がなくなるとは思えません。そんな話をしていたところ、ラジオで関係七市町村の存続協議会発足のニュースを聞いて、ひとまずほっとしました。

先の市のアンケートでも「白根の足を考える」というテーマがありました。今、電車がなくなると、それこそ車に頼るだけになってしまいます。車を利用できる人は良いけれど、学生や免許のない人は大変困ってしまいます。新潟交通の事情も分かりますが、ぜひ、存続に向けてがんばってほしいものです。(市政モニター 谷和久さん・十五期)

### ■電車は通院の唯一の足

私は、新潟脳外科病院に通院しています。車に弱いため、電車が通院の唯一の手段です。経営が苦しいのなら、今までの運賃を高くしても、ぜひ存続してくださいようお願いいたします。(匿名希望)

### ■自転車も乗り入れられる電車にしては?

私は、戦中・戦後の時期に、新潟市内から強制疎開のため、越後大野で暮らし、戦後の食糧不足の折には、白根の叔父の家などへ行くのに電鉄を利用させていただきました。四月に、電鉄全面廃止の記事が報じられて以来、私も素人ながら何か具体的な提案を出せないものかいろいろ考えてきました。そこで、私の考えた案の一つは、自転車の乗り入れを低料金にして、もっとアピールすることです。

現在でも、自転車は小荷物扱いで、すいている時間帯には別料金で乗り入れが可能ですが、料金を協議会で補助していただき、利用者が二百円ほどの別料金で乗り入れられるようにしてはどうでしょうか。自転車と電車に乗れば、乗り降りの駅から目的地まで時間の短縮にもなり、今まで電車を利用しなかった人も利用するようになるのではないのでしょうか。車両改造などの問題があるでしょうが、需要見込み調査を行い、検討して、二〜三年テスト期間を設け、実績を見てから廃止か存続かを決めていただけないでしょうか。(三木一男さん・新潟市)

## 夢が結集、市民委員奮戦

連載・見えてきた拠点(仮称)生涯学習センター⑥

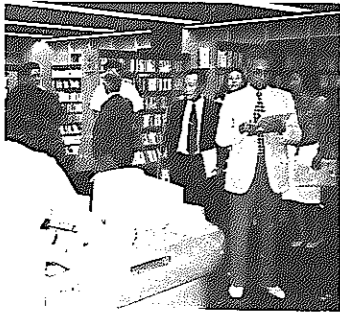
「新しい図書館、中央公民館、文化会館を造ってほしい。」

多くの市民の声の高まりを受け、市では平成八年二月、生涯学習センター構想を盛り込んだ第四次総合計画を策定。計画は同月十九日の臨時市議会で議決されました。長年、市民から要望の高かった図書館、中央公民館、文化会館に加え、理科教育センター、青年教育センターの機能をも備えた学習施設の建設は、白根市ではもちろん初めてのこと。白根の実情に合った建物にしていくため、市では同年七月、市民グループの代表や市内学識経験者ら十五人を(仮称)生涯学習センター建設計画検討委員に委嘱。施設の具体的な構想を市民の手に託しました。

検討委員として委嘱を受けたのは、公民館を利用するサークルの代表、青年教育センターを中心に活動する青年たち、市社会教育委員、図書館の建設を望む会員など十五人。第一回の会議で、会長に伊藤栄一氏(社会教育委員)を互選により選出。正式に検討委員会が発足しました。

委員らは、県内はもちろん、遠くは千葉や横浜まで足を運び、各地の図書館や文化会館などを視察。約一カ月間で、十三市町村、十四の施設を見て回りました。視察には図書館の建設・運営分野に明るい竹内紀吉千葉経済大教授が同行。アドバイザーを務めました。ある女性委員は、「いろんな施設を見学しました。白根にふさわしい機能を持った施設、そうでない施設といういろいろでした。あこがれた施設も多かったですね」と振り返ります。

あちこちの施設の良かった点を取り入れ、また自分たちの夢を出し合いながら、約半年間にわたって、何度となく会議を重ねられました。そして二月、検討委員会は、市に対する「生涯学習センター提言案」をまとめ上げました。



▲視察に回る検討委員の皆さん